

議 事 録

1. 会議の名称 池田市発達支援システム検討委員会
2. 開催日時 令和4年3月16日（水）午後3時～5時
3. 開催場所 池田市役所6階第5会議室・オンライン（Zoom）
4. 出席者
 《委 員》 片山委員長、糸賀副委員長、永井委員、
 上西委員、福本委員、竹内委員
 ※藤原委員、小林委員、川上委員、森委員、乾委員は
 欠席

 <大阪大学> 村田特任助教
 <事務局職員> 藤井子ども・健康部長
 （発達支援課）山田課長、森田副主幹
 （障がい福祉課）大賀主任主事
5. 議 題
 （1）令和3年・4年度の決算（決算見込み）などについて
 （2）医療的ケア児の協議について
 （3）各委員からの案件について（意見交換）
 （4）その他
6. 議事経過 別紙
7. 公開・非公開の別 公開
 ※非公開の理由
8. 傍聴者数 なし
9. 問い合わせ先 池田市 子ども・健康部 発達支援課
 （072）752-1111 内線190
 （072）754-6102 （ダイヤルイン）
 E-mail h-shien@city.ikeda.osaka.jp

議 事 経 過

発言者	発言の要旨
事務局	○開会 (部長挨拶、委員構成、出席状況など報告)
委員長	○委員長挨拶
事務局	案件(1) (資料1に基づき、説明。)
委員長	障がい児通所支援事業のところで、児童発達支援ですが、61 か所から 60 か所に減ると予測されています。ところが、延べ人数としては 2700 人から 3065 人となっています。これは一か所当たりの利用人数が増えるということが分かっているということでしょうか。
事務局	予算上の作成したタイミングが早い時期になったこともある。年度途中だったが、ある程度の延べを換算して 61 か所とあげました。実際は 61 か所以上出てくると思います。
委員長	言いたいこととしては、一か所あたりの利用人数が増えると、質が落ちると言われていますが、そのあたり何か対策は考えられているのでしょうか。
事務局	実際、池田市内にある児童発達支援の事業所は 21 か所ありまして、後は全て他市であります。まだ、中まで入って指導はできていないですけども、今後そういったことは考えております。
委員長	放課後等デイサービスも含めてですが、障がい児通所支援事業の質を上げていく必要があると思います。国のガイドラインが出るのを待つというよりは、市としてやれることを考える必要があると思います。何かそれに対して、方法などお考えでしょうか。
事務局	市としてできることは、今、事業所連絡会を年に一回開催しています。コロナで出来ない時期もありましたが、そこに力を入れていくのは一つの方法だと思います。

<p>委員長</p>	<p>かおテレビが 1 月から再開されていますが、何件くらいされているのでしょうか。</p>
<p>大阪大学</p>	<p>毎回 10 件くらいされているので、今二月半終わって 60 人くらいです。</p>
<p>委員長</p>	<p>せっかく令和元年度まで受ける人が着実に増えてきていたので、また受ける人が戻ってほしいと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>児童発達支援も放課後等デイサービスも利用者数が膨大に伸びてきています。池田の子ども達がそこを利用し、どのような関わりをしてもらうことで、将来にどう繋がるのでしょうか。ただ預けているだけという認識の親もいらっしゃる。きちんとした捉えを持たせるための機能を担うのはどこなのか。自立支援協議会がいいのか、ここの会議がいいのか。池田の子どもたちの成長のためには、指導が必要だと思います。池田市の事業所ができたと喜ぶんですが、親の認識もそこでストップしてしまうので、親も事業所もきちっと認識できるような指導があれば良いと願っているところです。可視化できる方法、親の声を拾い上げる手段、その子に合わせた事業所に行けるのか、親も勉強してその事業所を選んだのか、近くだから選んだのか。親と本人と地域をつなぐ、親も事業所も伸びてほしい。その子に返る支援の指導を市の方にしてほしい願いを持っています。</p>
<p>委員長</p>	<p>今大事なことを言っていたと思います。事業所が増えてきたからと言って、子ども達の課題の解決になっているか、自立になっているかの検証がなされないまま増えていっているのは問題だと感じます。効果を可視化できる仕組みと一緒に、それを市がコントロールできると、先進的な仕組みと評価されるのではないのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>利用者の方からみてどういう点が良かったかのフィードバックはされてるのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>受給者証の期限が最長で 1 年間。窓口やコロナ禍では電話でのききとりもしています。療育に通っているの変化や、事業所を 2 か所以上使っている方は、どういう目的で使い分けているかについては必ず確認し、どういうところが伸びたか、どういうところが良かったかは職</p>

<p>委員長</p>	<p>員で共有しています。</p> <p>ここに資料として出てこないと誰もジャッジができない。これだけ事業所が増えたことで、効果があるのかいろんな効果があると思うんです。聞き取られているということでしたら、ある程度まとめたかたちで提示していただく必要があると思います。そこで止まってしまうのではなく、会議の場に出てこないと検討できないと思います。フィードバックによって、どういう課題があるのかを共有していただかないと、皆で検討できないです。</p>
<p>副委員長</p>	<p>事業所同士の意見交換の場はあるのですか。情報交換や事例検討をする場はあるんですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>市内の通所支援連絡会というものがございます。発達支援課が事務局として開催しております。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういった情報はこの会議にあがってこないのでしょうか。まさにそういったことを、ここで議論しないといけないと思います。</p>
<p>副委員長</p>	<p>特にコロナ禍でどこの事業所も大変だったと思います。そういったこと一つにしても、こういうやり方でやったという事例があると、わかりやすい。より見える化して、より有効に高め合えたら良いのかなと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>共有されて、見える化されないと、せっかく良いことをやっても別のことに使えない。そういったところが全く不透明です。分かる形で市民に提示していくことが必要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>養育者から聞こえるのは、預かってもらえるだけで有難いという声なんですよね。そういう気持ちは養育者は皆分かると思う。そういったことを共有されると、頑張っている方たちの励みになると思います。こうしてほしいという意見が集まれば、いろんな助けになると思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>教育センターから見える課題や、ここで検討する必要のある事はありますでしょうか。</p>

<p>委員</p>	<p>学校の方から放課後等デイサービスについて聞くことがあります。事業所によっては、保育所等訪問支援事業を、学校の方に保護者から依頼があって使いたいけれども、そこを学校が理解をできていないということがあったので、そこについては学校に理解を促しています。あとは、車で迎えに来る事業所が多く、学校としてはそれが必要なのかという声があがっていたというのはあります。以上です。</p>
<p>委員長</p>	<p>通われてる事業所に関する情報については学校の方では把握されていないのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>どこの事業所を利用しているのかというのを、支援学級担任が把握しきれていない現状があります。お迎えがくると、そこに行っていることはわかるけども、そこで何をしているのかというのは、事業所による差もありますが、そこまでの共有はできておりません。</p>
<p>委員長</p>	<p>今後、市からの依頼があった場合、そういったことを把握してもらうことは可能でしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>少なくとも通っている事業所については市として把握しようとしています。お子さんの状況については記載してもらうよう促しています。その先については、まだ検討できておりません。</p>
<p>副委員長</p>	<p>特別支援の内容について質問させていただきたいんですが、GIGA スクールといわれる現状の中、障がいのある子が置かれているスタートラインがまちまちになっていると思う。GIGA スクールが特別支援にとって、どういうメリット、デメリットがあるのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>一人一台タブレットが入ったことで良かった点としては、休校や学校に行きづらい方、疾患等のために登校を控えている方が学校とつながることができるのが良い点としてあります。あとは、書くことに困難があるお子さんが、タブレットを使うことで学習の同じラインに立てるというのがあります。デメリットとしては、支援担の理解によって保護者からこうしてほしいと要望があった場合に進む場合と、進まない場合があるので、担任によって差が生じていることは課題として認識している。タブレットがあることで学習効果がでることはある</p>

<p>委員長</p>	<p>が、人との繋がりがそれによって流されないかというのが心配しているところでは。</p> <p>使用するにあたっての大前提のルールは、市で統一しておいた方がよいと思います。手元にあるとついつい使ってしまう人は多いですね。</p>
<p>委員</p>	<p>放デイの数は増えていますが、設備面とかの面で肢体不自由児は使えない所も多く、増えてはいても私たちの子どもが使いにくいところは改善されないままな気がします。あとは、事業所の質については支援できる形をとってもらいたいです。</p>
<p>委員長</p>	<p>市が音頭をとって見える化を進めていってほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>案件（２） （資料２に添って、説明）</p>
<p>委員長</p>	<p>池田市の地域自立支援協議会は障がい福祉課の中に入っているんですか。この発達支援システムの会議との連携はあるんでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>直接連携は今までありませんでした。</p>
<p>委員長</p>	<p>当然ながら関連してくると思うが。連携がないというのはあり得ないのではないのでしょうか。</p>
<p>副委員長</p>	<p>今、池田では医療的ケア児を受け入れる学校はないんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校、中学校ともに医療的ケア児はいます。吸入やバギーを常時使用している子もいます。医療的ケア児の数は増えていて、エレベーターがついている学校も増えています。今までは石橋小学校だけでしたが、他の学校にも設置されてきています。医療的ケアの新しくできる部会の会議を通じて、看護師との繋がりなど、前に進めていけたらよいと思っています。</p>
<p>委員長</p>	<p>部会ができて、体制が整うことが大事だと思います。疾患別に様々検討すべきことがでてくると思います。中には、てんかんのコントロ</p>

<p>委員</p>	<p>ールが難しい子もいて、てんかんは発達障がいとの併存も多いですし、こちらとの連携も必要になると思います。</p> <p>医師会の中で、地域で人材を育てていく、人材づくりの活動をしている。ぜひ医師会から応援に行きますので、活用していただけたらと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>案件（3）</p> <p>今回は各委員からの案件は特にありませんでした。</p>
<p>委員</p>	<p>今の話の中では通所支援事業所が増えていって、その質の向上の話は、やまばと学園でも問題になっている。やまばと学園に来られている子どもは昔に比べて低年齢からくる人が増えています。お母様が選ばれるのは口コミや近いからなど、実際預けたらその間何をしているのか把握していない人は多い。お母さんたちからそれを聞くにとどまっているが、質の向上が進んでいくと良いと思います。</p> <p>やまばと学園にも医ケアの子は来ていて、来年度も来ることが決まっている。現状としては、うちの看護師の担う責任が大きい。何かあった時にすごく重責だと思っている。会議の整備が整って情報共有して皆で支える体制ができると有難いと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>質を共通した基準で拾えたら良いと思う。まずは生の声をあげてもらって、それを俯瞰できる形にすると良いと思う。その次に、共通した基準ではかかっていかないと、市としてチェックリストのようなものができて、事業所に自己評価から始めてもらえると良いので、そういった準備も始めてもらえると良い。</p>
<p>副委員長</p>	<p>保育園での医療的ケアは実際預かっている子はいるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在はいらっしゃらない。相談はあったけども利用してない。Ⅰ型糖尿病の方等はこれまでいしましたが、ただ、受け入れ準備はしていて、その際は医師を呼んで会議の場を設ける予定です。令和 4 年度からは制度が整っていると聞いています。</p>
<p>委員</p>	<p>豊中市と茨木市に医療的ケアの相談員として行っていますが、結構医療的ケアを受けている人は多いんです。保護者の方も医療的ケアの</p>

<p>委員長</p>	<p>受け入れがないと、その市で受けることを諦めてしまう人もいます。保育の場で医療的ケアが充実していくと、学校にも繋がっていくのではと思います。保育所内の取組みは、リハビリ的な要素が見逃されがちなので、そういった視点を持つのも大事だと思います。</p> <p>非常に大事な観点だと思います。私が最近外部の評価をしているところでは、人材育成をすることで質を担保しようとする動きが出てきています。今回で言うと、先ほど話も出ていましたが、ある人にものごく重責がいきってしまい、周りは専門じゃないからその人に任せるといのは、その人が異動になったり、辞めたりすると途端にダメになってしまう。それはシステムとしては脆弱だと思います。会議が開かれるメリットは横のつながりがスムーズに行われることで、そういったリスクをヘッジできると考えている。ネットワークを作り、送り先がいくつか分かり、用意されているという状態になるために、こういった会議が必要だと思います。自分の専門領域以外のことも学ぶことで、何かあった時に、どこに繋いだら良いのかがすぐにわかり、子どもの課題解決がスムーズになるというのを目の当たりにしました。池田市の中でも増やしていけないかと思っています。池田市でそういった人材を育成するというのではなく、そういった手段が課題解決の方法としてあるということを共有させていただきました。</p> <p>残念に思っているのは、この会議の資料の規則にあるように、多様な職種が集まって繋がっていくために開催しているのにも関わらず、5名も欠席がでる。規定を変えるのは難しいが、欠席なら代理を立てるなどしないと会議が成り立たないと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>医療的ケアを学校で進めていくためには看護師を配置することになると思うが、学校に配置すると上手くいかないんですね。教育センターに配置して、教育センターから出向していく形をとらないと、学校に入ってしまうと全部の責任を負うことになるので続かないんですね。そのあたりの検討、ご指導をよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員のことも、開催の回数も特に規定がないからといって、3月半ばの1回きりになると、今回共有されたことが、また年度が変わり人事異動があるとまっさらな状態になってしまう。ぜひ年度の真ん中での開催や、代理をたてて出席してもらうことで、全ての機関に共有していく機会を確保してほしいと思います。</p>

事務局	<p>案件（４）その他</p> <p>事業所の質、池田市の事業所への指導といった話が取り上げられていましたが、預かりがメインのような事業所があるのも事実です。事業所連絡会に力を入れていく必要性を今回感じました。指導にはまだ手を伸ばせていないのはありますが、今年度も市民の方から声があった事業所に、障がい福祉課と共に査察的に行かせていただいたケースはありました。今後も市民の声に耳を傾け、対応していきたいと思います。代理の出席に関しては、出席にはカウントはできないという状況があります。</p>
委員長	<p>議決を取るのにはカウントできなくても、その部署の代表として来てもらい、話をして自分のところに持ち帰ってもらいたい。</p>
事務局	<p>その方が会議の内容も深まると思うので、ぜひ検討していきたい。次回の会議については、来年度の夏頃に開催できればと思います。</p> <p>○閉会（委員長挨拶）</p>